
更新検知ツール

[インストール手順書]

2010/10/21

独立行政法人 産業技術総合研究所
バイオメディシナル情報研究センター

0. 目次

本インストール手順書は、以下から構成されております。

1. 更新検知ツール	P. 2
1.1 ディレクトリ構成	P. 2
1.2 設定	P. 3
1.3 動作環境	P. 5
2. 管理GUI	P. 8
2.1 ディレクトリ構成	P. 8
2.2 設定	P. 8
2.3 動作環境	P. 9

1.2 設定

(1) ディレクトリのパーミッション

下記ディレクトリは、本ツール、及び管理GUIから書き込みが行われます。
よって、他人にも書き込み可能なパーミッション設定をしてください。

```
・log  
・update_reports
```

(2) ミラーサイトの場所

ミラーサイトを作成する場所を指定します。
DetectUpdate.pmの28行目を編集して下さい。

例: /WWW/cgi-bin/gpmanager/mirror_site 下に作成するなら、以下のように設定して下さい。
use constant WGET_OUTPUT_DIR=>'WWW/cgi-bin/gpmanager/mirror_site';

* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。

* ディレクトリの後には、スラッシュ(/)を付けないで下さい(例では、mirror_siteの後)

(3) XMLファイル出力の場所

XMLファイルを出力させる場所を指定します。
DetectUpdate.pmの29行目を編集して下さい。

例: /WWW/detect_update/update_reports 下に出力させるなら、以下のように設定して下さい。
use constant UPDATE_REPORTS_DIR=>'WWW/detect_update/update_reports';

* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。

* ディレクトリの後には、スラッシュ(/)を付けないで下さい(例では、update_reportsの後)

(4) wgetログファイルの出力場所

wget のログファイル出力場所(及びファイル名)を設定します。
DetectUpdate.pmの31行目を編集して下さい。

例: /WWW/detect_update/log/wget.txt で出力させるなら、以下のように設定して下さい。
use constant WGET_LOG_FILE=>'WWW/detect_update/log/wget.txt';

* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。

(5) ログの設定ファイルの場所

ログの設定ファイルの場所(及びファイル名)を設定します。
DetectUpdate.pmの32行目を編集して下さい。

例: /WWW/detect_update/log/conf/log4perl.conf を設定ファイルとするなら、以下のように設定して下さい。
use constant LOG_CONF=>'WWW/detect_update/log/conf/log4perl.conf';

* パスは、必ず絶対パスで指定して下さい。

(6) ログ出力の設定

ログ出力の設定ファイルを編集します。
log/conf/log4perl.conf の 4行目を編集して下さい。

例: /WWW/detect_update/log/ 下にログファイルを出力させる場合、以下のように設定して下さい。
log4perl.appender.LOGFILE.filename = /WWW/detect_update/log/error.log

(7) モジュール宣言

detect_update.pl の12行目を編集して下さい。

detect_update/pm を絶対パスで指定して下さい。

例: use lib qw(/WWW/detect_update/pm);

Interface.pm の16行目も、同様に編集して下さい。

(8) DB構築

本ツールをMEDALS2サーバ以外で動作させるためには、アイテムDBを構築する必要があります。
アイテムDB、及びその中のテーブル群を構築するSQLを適宜変更の上実行して下さい。

db/create_db.sql は、DBを作成するSQLです。

db/create_user.sqlは、ユーザを作成するSQLです。ユーザの作成が必要な場合に実行します。

db/create_tables.sqlは、テーブルを作成するSQLです。

DB構築に伴い、Item.pm、SubItem.pmとUpdateHistory.pm を編集して下さい

Item.pmの7行目を編集して下さい。

DB接続のユーザIDとパスワードを設定します。

ユーザIDがroot、パスワードなしの場合は、以下のように設定します。

```
Item->set_db('Item', 'db:mysql:item', 'root', '');
```

SubItem.pmの7行目を、Item.pmと同様に編集して下さい。

UpdateHistory.pmの7行目を、Item.pmと同様に編集して下さい。

(9) 管理GUIの設定

更新検知ツールをインストールした環境に合わせ、管理GUIの設定を行ってください。

管理GUIの設定は、P. 9をご覧ください。

(10) クーロンの設定

detect_update.pl は、定期的にWebサイトの更新を確認するプログラムです。

更新を確認させたい頻度で、クーロンを設定して下さい。

毎日21時に更新を確認する場合は、以下のように設定して下さい。

```
* 21 * * * cd /WWW/detect_update; perl detect_update.pl
```

1.3 動作環境

以下の環境で、動作を確認しました。

OS:	GNU/Linux
OSのリリース番号:	2.6.9-55ELsmp
マシンタイプ:	i686
プロセッサタイプ:	i686
ハードウェアプラットフォーム:	i386

必要なソフトウェア

•Perl	5.8.5
•Apache HTTP Server	2.0
•MySQL	4.1.20
•GNU Wget	1.12
•sendmail	リリース8
•tidy	released on 25 March 2009

必要なPerl モジュール

- Log::Log4perl
- Tie::IxHash
- Digest::MD5
- LWP::UserAgent
- File::Find
- File::Path
- URI
- HTTP::Request
- MIME::Base64
- Email::MIME
- Email::MIME::Creator
- Email::Send
- Unicode::Japanese
- Class::DBI

2. 管理GUI

2.1 ディレクトリ構成

下記ディレクトリ構成で、MEDALS2サーバの/WWW/cgi-bin下にインストールして下さい。

gpmanager

```

| .htaccess          edit.cgi           exec_item_insert.cgi   search_result.cgi
| .htpasswd          edit_group.cgi     index.cgi              search_update_histry.cgi
| add_item.cgi       exec_group_delete.cgi  item_group_list.cgi    update_check.cgi
| count_registered_group.cgi  exec_group_update.cgi  item_update.cgi
| delete_item.cgi    exec_item_delete.cgi  search_item_group.cgi
|
|---css
|  contents.css
|  thickbox.css
|---images
|  loadingAnimation.gif
|  medals_title.gif
|---js
|  config.js
|  form_utils.js
|  jquery-1.3.2.min.js
|  thickbox.js
|
|---pm
|  common.pm
|  system_config.pm
|  top.pm
|
|---template
|  add_item.tpl          group_update.tpl      update.tpl
|  delete_item.tpl      index.tpl             update_histry_info.tpl
|  form.html            information.tpl        update_histry_info_null.tpl
|  form_group.tpl       item_group_list.tpl
|  form_group_table.tpl item_info.tpl
|  group_daletе_ok.tpl  result.tpl

```

2.2 設定

(1) pm/system_config.pm の編集

3. 更新検知ツールをインストールした場所に合わせ、以下を書き換えて下さい。

15～24行目 アイテムDBへ接続するための情報を設定します。
更新検知ツールをMEDALS2サーバ以外のサーバへインストールした場合、
インストール先に構築したアイテムDBの設定に合わせて設定して下さい。

47行目 ミラーサイトの場所を指定します。
ミラーサイトを構築した場所に合わせて設定して下さい。
絶対パスで指定し、最後のスラッシュ(/)は付けしないでください。

50行目 ミラーサイトへのリンクを設定します。
URLを指定し、最後のスラッシュ(/)は付けしないでください。

(2) update_check.cgi の編集

3. 更新検知ツールをインストールした場所に合わせ、以下を書き換えて下さい。

3行目 更新検知ツールを置いたディレクトリを指定します。
更新検知ツール(detect_update ディレクトリ) を、/WWW 下に置いた場合、以下のようになります。
use lib qw(./pm /WWW/);
* ./pm はそのままにしてください。
* /WWW/ のように、絶対パスで指定し、最後のスラッシュ(/) は付けてください。

(3) Apache の設定

ミラーサイトのディレクトリを、CGI実行不可にします。この設定をしないと、複数のミラーサイトのブラウジングができなくなります。
Apache の設定ファイルに、以下を追記して下さい。

```
<Directory "[ミラーサイトのディレクトリ]">  
  RemoveHandler cgi  
  Options -ExecCGI  
  order allow,deny  
  allow from all  
</Directory>
```

* [ミラーサイトのディレクトリ] は、ミラーサイトを構築したディレクトリ

2.3 動作環境

以下の環境で、動作を確認しました。

OS:	GNU/Linux
OSのリリース番号:	2.6.9-55ELsmp
マシンタイプ:	i686
プロセッサタイプ:	i686
ハードウェアプラットフォーム:	i386

必要なソフトウェア

•Perl	5.8.5
•Apache HTTP Server	2.0
•MySQL	4.1.20

必要なPerl モジュール

•HTML::Template